

TREE Digital Studio (東京都渋谷区) は、広尾MTビルで稼働するカラーグレーディングルーム「Bay-301」に、フィルムライートのカラーグレーディングシステム「Baselight」(ベースライト)を同社として初導入。運用を始めた。



Bay-301

TREE Digital Studio

「Baselight」ソフト版を初導入 グレーディング環境を拡充



足立氏と長沼氏

同社は従来、「ダビンチリゾルブ」とMacから成るグレーディングシステムを設備してきたが、Linuxベースのターゲットシステムであるベイスライトに、新たにMacベースのソフトウェア版が発表されたことからシステムを追加した。同社カリストの足立悠介氏は「以前からシステムには関心があったが、今ある機材(ハードウェア)を

「ア」を生かしなう。社内コンポジット部門のデータ連携も強化された。LUTを用いた受け渡しではプライマリーの色調整情報しか出力できなかったが、専用の「BLGファイル」を利用することで、マスクやトラックインクといったセカンダリー情報を含め、メインのツールである換えるのではなく、ベイスライトのフローを構築したい」と抱負を話すと同時に、「カラーパレットを直接操作して色を出すような感覚で、これまで以上に直感的かつ微細な調整ができる」と説明。現在の状況は「筆が増えたようなイメージ」だと表現し、「色の1つ1つを細かく調整できる分、自分がどんなゴールにしたいのかより強く意識する必要がある。カラーリストとして成長させてくれるツールでもある」と語る。



Bay-301

ベイスライトは現在、足立氏と長沼氏の2名が中心に運用する。将来的には体制を拡充し、ベイスライト専用室を構えたという。

事業部から評価する声も聞かれるという。足立氏は「最終結果の画を確認した状態でコンポジット作業に入ってもらえる」と変化について話す。現在は実案件での運用と合わせ、ワークフローの練度を高めている。足立氏は「リゾルブでのアプローチをそのまま置き換えるのではなく、ベイスライトのフローを構築したい」と抱負を話すと同時に、「カラーパレットを直接操作して色を出すような感覚で、これまで以上に直感的かつ微細な調整ができる」と説明。現在の状況は「筆が増えたようなイメージ」だと表現し、「色の1つ1つを細かく調整できる分、自分がどんなゴールにしたいのかより強く意識する必要がある。カラーリストとして成長させてくれるツールでもある」と語る。